

令和3年度学校評価について（総括）

学校評価の活用等について（課題の改善に向けた具体的な取組み等）

領域	具体的な取組み
1. 学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は地元中学校（自転車通学圏）からの入学者が多く、地域に根ざす学校づくりとして地域と協働した教育活動を行っている。このことは、学校運営協議会でも地元から信頼される学校づくりの取組みとして評価を受けている。次年度は、地域連携のプログラムを継続すると共に、新教育課程への対応・1人1台端末の活用により生徒の学力向上に有効な授業を行う課題があることを教員間で共有している。そのため、授業法の研修を心がける教員が増加しており、新たな課題や取組みに全教員で取り組む体制が構築できつつある。 ・新型コロナウイルス感染症対策は全校あげて即応できる体制をとった。感染症予防だけでなく個人面談の充実など心のケアについても意識的に対応しており、また学校行事など工夫して取組み可能な限り実施する方針で学校経営を行った。
2. 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・例年同様、家庭学習の時間が不足している。授業を振り返るワークシートやまとめのプリントなど家庭学習にふさわしい教材を提供しているが学習時間の上昇には結びついていない。次年度からの1人1台端末の活用による教材の提供などを検討し、学力定着の取組みを進める。 ・「学びの変革委員会」を軸にした校内研修を通じ、教員の指導力向上を図るため、公開授業期間・研究授業を実施した。
3. 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から始めたスマホ預かり指導の取組みが定着し、休み時間から授業へスムーズな移行、スマホの不適切使用による問題行動が生じなくなった。また、いわゆるスマホ依存症・ゲーム依存症の生徒も見られていない。さらにスマホに費やす時間が読書に移行する生徒が増加し、図書館の利用向上などの成果も見られた。 ・頭髮服装や遅刻についての指導、朝の立ち番、挨拶運動等が効果をあげており、生徒・保護者アンケートからも高い意識で規律ある学校生活を送っているという結果が出ている。挨拶や身だしなみについても、引き続き地域住民からも信頼されるよう指導していきたい。 ・自転車マナーの改善にむけて交通立番や啓蒙を行ったが、一部生徒のマナー違反があり、一層の取組みが必要である。
4. 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は多様な進路希望先に対応した体制を敷いている。今年度は進路ガイダンスの改善を図るだけでなく、昨年度より実施しているアクティブワーキングガイダンスの回数を増やし、早期から幅広い視野で希望進路について考えさせる指導を行い、成果を上げた。生徒アンケートからも適切に進路行事があるという回答が9割に上る。 ・コロナ禍での社会状況の変化に柔軟に対応できるような進路指導を心がけるとともに、生徒の進路意識の涵養と学力向上に取り組むを進めなければならない。
5. 特別活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により特別活動を見合わせる期間があったが、実施時期や実施形態を工夫し特別活動を実施した。体育祭は全校で実施することができた。学年毎の校外学習、学年別の文化祭、1年のみで地域と協働した避難訓練等も実施し、昨年度以上に特別活動の実施による自主性の育成などに効果を上げた。修学旅行も方面を変更し実施し生徒の満足度は例年並に高かった。その成果として、学校行事に関わる項目について保護者・生徒とも前年度を大きく上回った評価となった。
6. 学校図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ預かり指導に伴い、休み時間を図書館の読書で過ごす生徒が昨年度よりさらに増加した。特に、昼休みの図書館利用者が、昨年度と比べて倍増した。併せて、貸し出し冊数も増加した。 ・毎月の読書週間の取組みを継続し、意欲的に読書をする生徒を育成している。教科指導等を通じて、読書活動を促すような取組みも必要である。 ・図書館だよりを紙媒体の配布だけでなく、連絡網での電子配布も行い生徒・保護者が読みやすい工夫を行う必要がある。
7. 保健安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケートから、昨年以上に徹底して感染症防止に取り組んでいることがわかった。学校でもマスクの装着・換気の徹底・黙食の徹底の指導

	<p>を行い、全教室に換気扇やCO₂モニターを設置し、設備面での対策も強化したので生徒・保護者の意識は高くなっている。一方、感染症対策の期間も長くなり、社会の急速な変化も生じているので、生徒の心のケアが一層必要であることを教員間で共有したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケートからも教育相談に対する評価は高く、教員も教育相談を特に心がけており、今後も教育相談の研修や日々の実践を通じて、生徒・保護者にとって相談しやすい環境を整え継続していく必要がある。
8. 人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートから、他人に対する思いやり、人を傷つけないように心掛けているという生徒の割合が多いが、未熟な言動が見られることもある。日常の教室での生徒同士の会話にも日頃から注意を払い、問題を未然に防ぐよう、生徒観察を十分に行い、教員間で情報を共有し早期対応を徹底したい。 ・各学期のいじめ等アンケート調査を継続的に行っている。しっかりと分析し、いじめの早期発見・解決につなげる体制を維持したい。 ・コロナ禍により近隣の社会施設を訪問してのプログラムが昨年度に引き続き中止となったが、オンラインやICTを活用し、実地研修に近い形態で事業実施ができた。
9. 環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートから生徒のゴミの減量・分別や美化に対する意識は高いが、必ずしも十分に達成できているわけでない。清掃の方法や、環境美化の重要性を根気よく指導していきたい。 ・舎外清掃および地域の清掃活動については3月に実施する予定である。
10. 事務・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートから施設・設備を大切に扱っているという意識が比較的高い。 ・教員の個人情報の取り扱いについて研修を複数回実施し、継続的に高い意識が持てるように工夫している。今年度は職員AED研修、地域と合同の避難訓練も実施した。危機管理意識の高揚に引き続き努めたい。
11. その他学校の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動も感染症対策により、昨年度同様に例年と比べて会議の回数や行事が縮減となったが、保護者参観できない学校行事にPTA広報委員や本部役員による取材の機会を設け広報誌により生徒活動の紹介を行った。 ・地域との活動（地域と協働する避難訓練、社会福祉施設でのフィールドワーク、生徒ボランティアによる読み聞かせ等）も感染症対策を行い実施した事業やオンラインを活用した代替事業で生徒の多様な成長を支えた。 ・さくら連絡網を運用することにより、より細かく適切に保護者・生徒へ連絡体制が整った。学校の発信力の保護者評価が昨年と比べて大幅に増加した。